

令和7年10月31日(金)

未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第178号



～修学旅行から学ぶお金について～

3年支援部

3年生は、3泊4日の北海道での修学旅行を終えました。修学旅行では、ウポポイ、ルスツリゾート、NAC(ラフティング等の体験)、小樽に行きました。その中で、生徒たちは決められたお小遣いの金額内で、お土産を買ったり、北海道のおいしい料理を満喫したりしました。今回の修学旅行では、毎晩、自分がどれだけお金を使ったかを把握できるようにお小遣い帳をつけて、管理をしました。計画的に買い物ができる生徒、そうでない生徒もいたと思います。今回は、「お金」について一緒に考えていきたいと思います。

<お金を稼ぐことは大変なこと>

学校外で自由に使えるお金について、お小遣い制をとっていたり、遊びに行くときに、その都度お小遣いをもらっていたりする場合があると思います。「お金を稼ぐこと=大変である」と子どもたちは漠然とは理解しているとは思いますが、実際にどれだけ大変な思いをして保護者が仕事をし、お金を稼いでいるかを想像することは難しいです。まずは生活するためには、どれくらいのお金が必要なのかを知っておくことが大切です。例えば、家賃、食費、光熱費、通信費、医療費、交際費、その他、それぞれ月にどれくらいのお金がかかるのかを、今の内からイメージできていると、生活するためには想像以上のお金が必要になってくることかわかってきます。

<限られたお金の中でやりくりをしていくこと>

将来、仕事をして入ってくる給料は決まっています。ほしい時にほしい金額をもらえる状況だと、お金を管理していくことはなかなか身についていきません。学生の間からお金を計画して使えるようにするために、月々のお小遣い制にするのもいいかもしれません。

例えば・・・月々のお小遣い3,000円(給料)だとすると、この3,000円の中で、必要があるものに優先順位をつけて購入したり、予算を立てて計画的に使っていったりすることを学んでいくといいと思います。また、お小遣い帳を毎月つけて、自分が何にいくら使ったかを、後で見返すことで、無駄遣いに気がつくこともできます。

<割り勘について>

高等特別支援学校の生活が長くなってくると交友関係も広がっていきます。その中で、友だちとカラオケに行ったり食事に行ったり楽しい時間を過ごしていると思いますが、そこで問題になるのが、支払いです。用事があるので先に帰ってしまったり支払いをしないままだったり、割り勘の計算がうまくできず、一人分の支払金額が違っていたりすることがあります。自分が使った分はきちんと支払ってから帰ることと、どれくらいの費用がかかったかを人任せにせず、自分できちんと把握しておくことが大切です。

「お金」は、生活していく中で必要不可欠なものです。仕事を始めるとお金を稼ぐことがこんなにも大変なことなのかと痛感すると思います。また、「お金」は時に大きなトラブルを巻き起こす原因にもなります。お金の大切さやうまく付き合っていく方法について、卒業するまでにしっかりと学んでほしいと思います。

休日の過ごし方と移動支援の活用について

近年、卒業後の生活を見据えて、「休日をどのように過ごすか」という視点が大切になっています。平日は学校で活動的に過ごしていても、休日は家の中でゲームや動画視聴だけになってしまう、という生徒も少なくありません。

もちろん、ゆっくり過ごす時間も必要ですが、将来、地域の中で充実した生活を送るためには、自分で出かける力や、余暇を楽しむ力を育てることが重要です。そのようなときに活用できる福祉制度のひとつに、「移動支援」があります。移動支援とは、ガイドヘルパーが付き添って外出をサポートしてくれる仕組みで、買い物・映画・カラオケ・散歩など、本人の希望に応じて地域での活動を広げることができます。

移動支援は「通学目的」では使えませんが、放課後や休日の外出、余暇活動には利用が可能です。たとえば、

- ・ 通学で使ったことのない電車や、バスに乗る練習
- ・ カフェや公園に出かけて社会的マナーを身につける
- ・ 将来の通所先や地域の施設に慣れる

といった目的で活用されるケースもあります。

家庭だけでの外出が難しい場合でも、ヘルパーと一緒に安心して活動でき、社会的な経験を積みきっかけになります。今後、進路や卒業後の生活を考える上でも、ぜひこうした制度の利用も視野に入れながら、「休日をどう過ごすか」「地域でどんな経験を重ねるか」についてご家庭でも話し合ってみてください。

作業療法士の来校について

3年生の保護者の皆さまには6月にお伝えしておりましたが、本校では今年度、外部専門家活用事業の一環として、作業療法士の先生にお越しいただいています。

3年生は6月にすでにご来校いただき、授業の様子を見ていただきながら、よりよい指導につながる助言をいただきました。2年生は11月、1年生は2月頃の実施を予定しています。

3年生の助言では、次のような内容がありました。

- ・ 筋緊張が高く、肩が上がりやすい、反り腰の傾向があるなど、身体の使い方に偏りが見られる場合は、膝や腰、肩に負担がかかる可能性がある。
→「だんごむしのポーズ」や「犬・猫のポーズ」など、簡単な体操でケアを取り入れるとよい。
- ・ 利き手が不明瞭(鉛筆は右手、箸は左手など)な生徒の場合、左手優位と考えられる。
→道具や材料の配置を利き手に合わせると作業がしやすくなる。
- ・ 左右がバランスよく使えていない。右と左で異なる動きをしている。手指の入力が弱く、インナーマッスルの強化が必要。
- ・ 部品を置いて作業すると、支持面を広くとれるため効率的に作業ができる。

このような専門的な視点からの助言をもとに、日々の授業の中でも一人ひとりの特性を踏まえた支援を進めていきたいと考えています。(※来校回数が限られているため、個別での指導は行っておりません。)

